



今年は授業の都合で、朝会が少なくなり、皆さんの前でお話できる機会が減ってしまいました。

今日は陸上大会の壮行会ですが、体育館に入ってきて驚きましたよね？この目の前にある作品を通し、皆さんに伝えたいことがありますので時間をください。

では、少しの間、お付き合いください。

これは「帰一（きいつ）」と読みます。「あらゆる物事のすべては一（いち）に帰る」という意味です。

仙台育英高校の書道部の皆さんが書いたものですが、そのパフォーマンスを見て、あまりに感動したので、この感動を唐桑中学校の皆さんにも味わってほしいと思いました。そこで顧問の先生や部長さんをお願いしたところ、快く譲っていただけました。

皆さんに披露する日を待っていました。あらためて見ても、すごい作品ですね。

さて、帰一。「あらゆるすべての物事は一に帰る。」ここで皆さんに質問です。

学校生活の「一（いち）」とは何だろうか。

この機会に考えてみましょう。

学校生活は、周りの友達と生活しているので、どうしても人をうらやましく思ったり、憧れたり、劣等感を抱いたりします。

勉強が得意でない人はテストの結果が出ると、よい点を取る人をうらやましいと思う。

運動が得意でない人は、体育の時間にかっこよく走っている人をうらやましいと感じる。

自分に自信のない人は、自信を持って発言している人の姿を見てうらやましいと感じる。

私はこれまで、「人と自分を比べないでください」と言ってきましたが、いざ、目の前で結果を見せつけられると、苦しい気持ちになってしまうのは、人間として仕方のないこと。その気持ち、分かります。

先日の中総体。君たちは最高の表情で学校に戻って

きてくれました。優勝しても1回戦で負けても、自分たちの目標に届いても届かなかったとしても、学校に戻ったとき、素晴らしい表情を見せてくれました。

そう。君たちが気付いたように、もっとも大切なことは結果ではない。結果は二の次。ということは、その前にやはり「一（いち）」があったはず。

学校生活の「一（いち）」も、実は、ここにあったと私は思っています。

勉強が不得意だろうが、運動が得意だろうが、自信がなくていい、優勝しても1回戦負けでもいい。その前の「一（いち）」をしっかりと忘れないように「やり抜いたこと」に大きな価値があるのです。

さて、ここでまた質問します。

先日の中総体。自分が遊び半分で大会に臨んだとします。すると、やっぱり試合で負けそうになったので、途中で諦めてしまったとする。ところがそのとき、相手が怪我をして試合を棄権した。その結果、勝ってしまったとしたら？

君たちは心から喜べたでしょうか？

今回と同じような感動を味わえたでしょうか？

やっぱり結果は関係がない。そう思いませんか？

勝っても負けても、結果がどうであろうと、君たちがたどり着いたのは、「最善を尽くすことが大事なのだ」ということ。

全力で取り組んだから結果を受け入れられた。そして、最後まで諦めずに戦い抜いたからこそ、「勝っても負けても」感動を味わうことができたのです。

学校生活の「一」は「一生懸命」の「一」。

最善を尽くすことができれば、何位だろうが構わない。悪い結果になろうが1回戦で負けようが、最高の表情で終わることができるのです。

明日は陸上大会。

トラック競技の人は、自分が何番だろうが、ゴールテープのある場所まで全力で走りきる。フィールド競技の人は、最後の1回まで最善を尽くしてきること。最後の最後まで絶対に諦めず、力を出し尽くしてきてください。それが、中学校生活の中で「もっとも価値のある『一（いち）』」です。

そして、その一生懸命を、また陸上大会から学校で待っている仲間たちに持ち帰ってきてほしい。

中学校生活は、一生懸命に最後まで全力を尽くそうとする姿が絶対にかっこいいのです。

君たちの健闘を、心から祈っています。頑張ろう！